



# 学校だより

調布市立調和小学校  
令和6年1月31日(水)  
校長 武田 美穂子

HP: <http://www.chofu-schools.jp/chowa-sho>

Mail: [chowa-sho@chofu-schools.jp](mailto:chowa-sho@chofu-schools.jp)

## よりよく生きるための基盤となる“道徳性”を養うために

副校長 佐久間 信介

社会のグローバル化や情報通信技術の発展に伴うインターネットやモバイル端末の普及、SNSによる新たな形のコミュニケーション等で、これまでモラルの問われる場面が数多く報道されてきました。また、未だに続く戦争や犯罪がある度に、なぜそのようなことが起きてしまうのかと素朴な疑問をもつ子供たちも数多くいることと思います。そこで問われるのが“道徳性”です。

“道徳性”とは、「人間らしいよさであり、道徳的な様々な価値が人それぞれの内面において統合され、人間としての本来の在り方やよりよい生き方を目指してなされる道徳的行為を可能にする人格の基盤をなすもの」とされています。

人はこの“道徳性”によって、様々なことを判断して行動選択をします。しかし、人間は元来、自己中心的で本能に従属している面が多く、道徳的な価値は理解していたとしても、なかなか実現できない弱さをもっています。例えば、やるべきことを先に終えて堅実な生き方をする人もいれば、どうしても興味本位で行動してやるべきことを後回しにする人もいます。なぜなら、“道徳性”とは、人の顔がそれぞれ違うように一人一人固有のものであると同時に、その場の状況や相手によっても変わるものなので、いわゆる「♪分かったやいるけど、やめられない♪」ということが起こりうるのです。

だからこそ、学校における道徳科の授業では、人間の自然な姿を無視することなく、様々な立場でいろいろな見方をして、答えを一つに絞ることのできない道徳的な課題を、一人一人が自分事として向き合って考え、話し合うことで“道徳性”を育むことを目指しています。

しかしながら、この“道徳性”はすぐに身に付くものではありません。教育界では「涵養(かんよう)」という言葉で表現されますが、自然に水がしみこむように徐々に養い育てることとされています。

街を歩いているとき(交通ルール、道端に落ちているゴミ)や乗り物に乗っているとき(席のゆずり合い、社内マナー)、公園で遊んでいるとき(遊具の順番待ち、ほかの子供との交流)など、普段の暮らしのなかにも、“道徳性”を育む素材となりそうなものはたくさんあふれています。

そのようなときには、ただ形式的にルールを教えたりアドバイスをしたりするのではなく、「〇〇のときはどうしたらいいかな?」「なぜ△△しなければいけないのかな?」など、子供に「考える種」を与えてみるのはいかがでしょうか。そして大人自身が議論の相手となっただけませんか。きっと、子供は子供なりに考えるはずで、仮に大人が「正解」と考えることとは異なっていたとしても、決して頭ごなしに否定せずに、まずは、しっかり考えられたことを褒めてあげてください。なぜならば、そうやって誠実に考えようとする姿勢や態度こそが「豊かな心」を育む方法の一つだからです。

大人が一つの価値判断や結論を押し付け、安直に道徳的価値の理解に至らせるのではなく、子供自身が最終的に道徳的諸価値について、どう考え、どうするかを主体的に判断し、よりよく生きられるような力を身に付けてもらいたいと願っています。

今月17日(土)の学校公開は「道徳授業地区公開講座」となります。子供たちの豊かな心を育むには、学校と家庭、地域社会が連携して子供たちと接することこそが“道徳性”をより育むためには大切だと考えています。今回の「道徳授業地区公開講座」も子供たちのさらなる健やかな成長のきっかけとなるようにご理解、ご協力をお願いいたします。



第1学年 配膳台を協力して片付け



第2学年 自主的な本の整理



第1学年 大掃除での靴箱掃除

